

令和5年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立豊郷北小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和5年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

令和5年4月18日(火)

3 調査対象

小学校 第4学年, 第5学年 (国語, 算数, 理科, 質問紙)

中学校 第2学年 (国語, 社会, 数学, 理科, 英語, 質問紙)

4 本校の実施状況

第4学年 国語 45人 算数 45人 理科 45人

第5学年 国語 41人 算数 41人 理科 41人

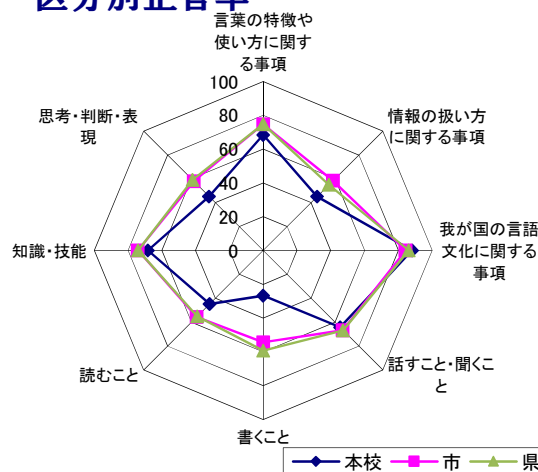
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、
「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立豊郷北小学校 第4学年【国語】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方に関する事項	68.5	74.7	74.8
	情報の扱い方に関する事項	45.2	58.4	55.0
	我が国の言語文化に関する事項	88.1	84.3	86.1
	話すこと・聞くこと	64.3	66.7	66.9
	書くこと	26.8	54.3	59.3
	読むこと	44.9	55.6	55.2
観点	知識・技能	68.2	74.1	74.0
	思考・判断・表現	45.2	58.0	59.1



★指導の工夫と改善

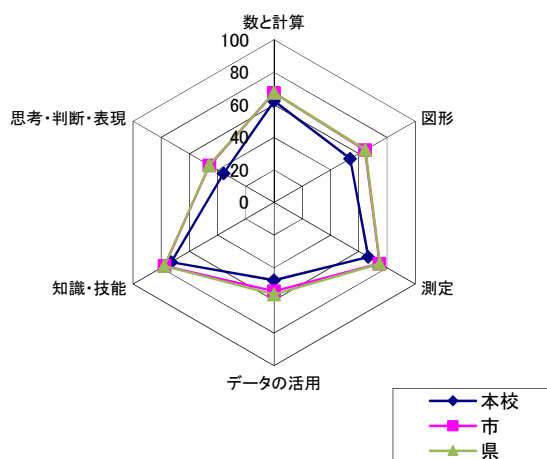
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	○漢字の読みについての設問では、正答率が90%を上回った。 ●漢字の書きについての設問では、正答率が40%を下回るものがあった。 ●主語と述語の関係を問う設問では、本校の正答率が県の正答率を下回った。	・漢字の読み書きについては、これまでの基礎基本の定着を図るための小テストでの確認や習熟を高めるための家庭学習の支援を続けていく。 ・主語と述語を意識した記述を指導し、文章構成力の基礎を見直す。
情報の扱い方に関する事項	●例文で用いられた「うるさく」の意味として適するものを選ぶ設問では、正答率が45.2%と市の平均を大きく下回った。	・書かれた文章の意味を正しく理解した上で、必要な情報を選択する力を育てるために、読解力や語彙力の向上を図りたい。そのため、様々な文章に慣れ親しめるような読書の機会を意図的に設けていく。
我が国の言語文化に関する事項	○漢字のへんを問う設問では、本校児童の正答率が88.1%と市の正答率を上回った。	・新出漢字等の学習において、反復練習に留めることなく、漢字の成り立ちや漢字そのものが表す意味などに関心が持てるように指導の工夫を行うことで、児童の主体的な学びの態度を促し、漢字への興味を高める。
話すこと・聞くこと	○話し手が話した内容を説明した文として適するものを選ぶ設問では、正答率が90.5%で市や県の正答率を上回った。 ●聞いた意見について、自分の考えを理由を挙げながらまとめる設問では、市や県の正答率を下回った。	・国語科の授業にとどまらず、対話的な学習機会を多く設けることで、相手の意見を基に自分の考えをまとめる力をつけていきたい。
書くこと	●こん虫について調べる方法について、与えられた条件に合わせて文章を書く設問では、市や県の正答率を大きく下回るとともに、無回答が多かった。	・ミニ作文や学習のまとめの記述など、日々の学習活動の中に文章を自分で構成して書く機会を増やし、個に応じた指導をしていく。
読むこと	○登場人物の気持ちとして、適するものを選ぶ設問では、正答率が90.5%で市や県の正答率を上回った。 ●段落の内容を捉え前半と後半に分けたり、文章の要約を読み、空欄に適する語を書き抜いたりする設問では、市や県の正答率を大きく下回った。	・説明文において、内容のまとまりを捉えて読み取る力をつけるために、段落の構成を意識しながら読み進めていくことを指導する。

宇都宮市立豊郷北小学校 第4学年【算数】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	62.3	67.3	67.4
	図形	53.8	64.5	64.7
	測定	66.7	74.7	74.9
	データの活用	47.6	54.4	56.4
観点	知識・技能	72.9	77.6	77.8
	思考・判断・表現	35.7	45.8	46.1



★指導の工夫と改善

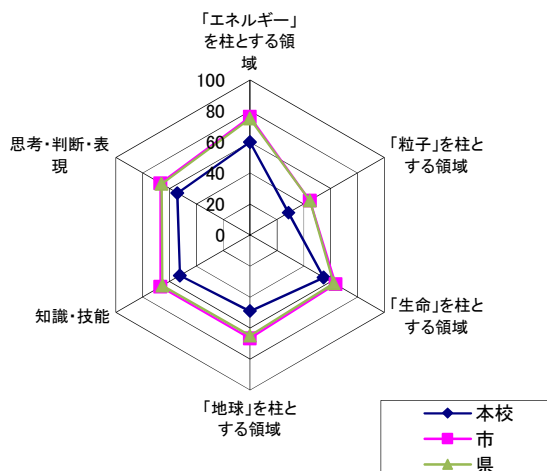
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>○小数のしくみや表し方に関する設問では、正答率が90%を上回った。</p> <p>○繰り上がりのあるたし算や2けた×1けたのかけ算では、市の正答率を上回った。</p> <p>●式の意味を正しくとらえ、言葉で説明する設問では、市や県の正答率を大きく下回った。</p>	<p>・基礎基本となる既習の四則演算は概ね身に付いている。今後もドリルや練習問題の取り組みを続けていく。</p> <p>・問題と式の間関係を明確に捉えられるように、場面をイメージしやすい図などを示し、視覚的に分かりやすい説明を授業に取り入れる。</p>
図形	<p>○二等辺三角形を作図する設問では、正答率が90%を上回り、市や県の正答率を大きく上回った。</p> <p>●円の性質を考え、コンパスを使って正三角形が作図できることを説明する設問では、市や県の正答率を大きく下回った。</p>	<p>・朝の学習などを利用して、作図などの基本的図形の描き方の復習問題に取り組む。</p> <p>・授業の中で、児童が主体的に考える時間を設け、基本的な図形の定義や性質について、言葉で説明できるように授業展開を工夫する。</p>
測定	<p>○地図から道のりを読み取ったり、時間が経過する前の時刻を求めたりする設問では、正答率が80%を上回った。</p> <p>●はかりの目盛りを読み取ったり、身近なものの重さを答える設問では、正答率が市や県を大きく下回った。</p>	<p>・はかりを使う機会を設け使い方を再度確認し、技能の習得を図る。</p> <p>・具体物を例に挙げながら、重さの見当をつける活動を積極的に取り入れる。</p>
データの活用	<p>○2つの棒グラフで1目盛りの数が異なることに注意しながら、棒グラフを読み取り、正しいものを選ぶ設問では、正答率が市や県を上回った。</p> <p>●2つの棒グラフを読み取り、2番目に多かったスポーツを答える設問では、正答率が市や県の正答率を大きく下回った。</p>	<p>・与えられた情報を正しく且つ漏れなく読み取り、解答しようとする習慣がつくよう、適宜指導する。</p>

宇都宮市立豊郷北小学校 第4学年【理科】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	60.0	76.2	75.1
	「粒子」を柱とする領域	28.6	44.5	44.5
	「生命」を柱とする領域	54.8	63.6	62.3
	「地球」を柱とする領域	49.1	66.6	64.9
観点	知識・技能	52.2	66.8	65.4
	思考・判断・表現	54.2	66.8	65.9



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	<p>○鏡で反射した光の進み方を理解しているかどうかをみる設問では、本校児童のおよそ9割が正答できていた。</p> <p>●糸電話の声の伝わり方を理解しているかどうかをみる設問では、市の正答率を下回った。</p>	<p>・電気の流れや音の伝わり方に関する設問の正答率が全体的に低く、復習が必要である。電気に関する学習は、今後も授業で積み重ねて行くので、機会をとらえて既習内容を確認し、理解の定着を図る。</p>
「粒子」を柱とする領域	<p>○姿勢を変えて測った体重が変化するかを、実験の結果をもとに記述できるかどうかをみる設問では、市の正答率を上回った。</p> <p>●粘土の形を変えても重さは変わらないことを理解しているかどうかをみる設問では、市の正答率を下回った。</p>	<p>・授業での実験で得た結果を、日常生活に置き換えて考えたり類似場面に当てはめて比べたりすることに課題が見られる。学習したことが生きた知識となるように、科学的なものの方・考え方を使う授業展開の工夫を行う。</p>
「生命」を柱とする領域	<p>○観察記録として必要な項目を理解しているかどうかをみる設問では、市の正答率を上回った。</p> <p>●アゲハが卵をうみつける場所を理解しているかどうかをみる設問では、市の正答率を大きく下回った。</p>	<p>・実際に行った観察から得た知識を、実際に観察していない類似生物に当てはめて考えることに課題が見られた。このことから、学んだことを自然のきまりとして捉え、得た知識を活用しようとする場の設定を意識的に設け、授業の改善を行う。</p>
「地球」を柱とする領域	<p>●かげと太陽の位置の関係に関する設問では、市の正答率を下回った。特に、太陽の位置の変化を方位で理解しているかどうかについての設問について、本校児童の正答率が3割程度と低かった。</p>	<p>・かげと太陽の位置に関する学習の復習が必要である。理科の授業のみならず、学校生活の中で既習内容を確認し、理解の定着を図る。</p>

宇都宮市立豊郷北小学校 第4学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「家で、学校やじゅくの決められた宿題のほかに自分で考えた勉強をしている」との質問には、「はい」と回答した本校児童の割合が40.5%で、市の割合29.4%を上回った。家庭学習として、宿題と自主学習を両立できるよう指導しているところであり、学力向上とともに自らの強みを生かしたり興味関心を広げたりする学習も推奨し、今後も継続指導していきたい。

○「1か月に、何さつくらい本を読みますか」との質問に、「11さつ以上」と回答した本校児童の割合が47.6%で、市の割合24.2%を大きく上回った。朝の学習や休み時間など教室で本を手にするときに、学級文庫や図書室の本を頻繁に貸し借りしていることで、新たな本に出会えて冊数が多くなることに寄与しているかもしれない。今後も読書習慣を推奨し、積極的に本を読もうとする態度を育みたい。

○「早ね、早起きを心がけている」との質問に、「はい」と回答した本校児童の割合が57.1%で、市の割合47.1%を上回った。昨今、ゲームやSNSに費やす時間が増えたことでの生活リズムが崩れてしまうことがあるが、各家庭での生活リズムに対する意識の高さが肯定的回答の割合を高めていると考えられる。これからも早寝、早起きの大切さを伝え、保護者と連携を図りながら児童の生活環境をよりよいものにしていきたい。

○「自分には、よいところがあると思う」との質問に、「はい」と回答した本校児童の割合が66.7%で、市の割合54.7%を上回った。毎日伸び伸びと学校生活を送り、元気に楽しく過ごす児童の姿が見られ、自己肯定感の高い児童が多いと考えられる。今後も家庭と連携を図って児童理解に努め、互いのよさを認め合いながら児童一人一人のよさを伸ばす指導を続けていきたい。

●「家で、学校の宿題をしている」との質問に、「はい」と回答した本校児童の割合は76.2%で、市の割合85.9%を下回った。家庭での生活リズムの中に、学習の時間が上手に組み込めず、宿題が後回しになってしまう児童がいる様子が伺える。児童の学力差や意欲差を考慮し、個に応じた宿題の量や質を工夫するとともに、児童の学力向上のために実りある活動であることを実感できるものになるような課題設定をしていきたい。

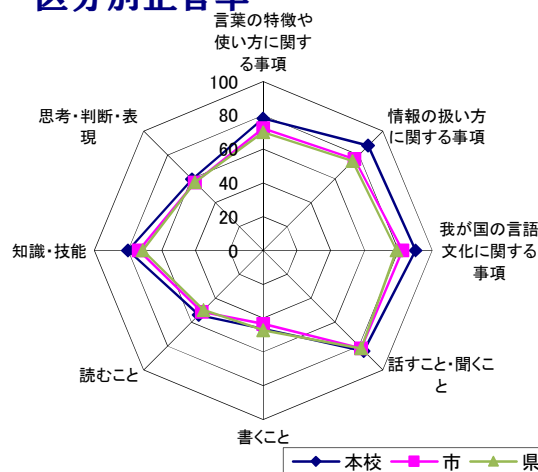
●「学校のきまりをまもっている」や「家でのきまりや約束を守っている」との質問に、「はい」と回答した本校児童の割合はどちらの質問においても40%程度であり、市の割合50～60%を下回った。学校生活の様々な場面できまりの大切さについて考えさせたり、きまりを守って生活することの気持ちよさを実感させたりして、規範意識を高めていきたい。

●「自分のよさを人のために生かしたいと思う」との質問に、「はい」と回答した本校児童の割合が50.0%で、市の割合60.7%を下回った。先に述べたように「自分には、よいところがあると思う」と肯定的に回答している児童が多いことから、自分によさがあると認識しているものの自己完結している様子が伺える。自分のよさとは自分の強みであることやよりよい人間関係を構築する上で有益なものであることを実感できるように、日々の学校生活で児童のよさをみんなで共有する機会を設けていきたい。

宇都宮市立豊郷北小学校 第5学年【国語】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使いに関する事項	78.1	72.3	70.0
	情報の扱いに関する事項	87.8	76.4	74.9
	我が国の言語文化に関する事項	90.2	82.4	78.9
	話すこと・聞くこと	84.2	81.9	82.0
	書くこと	46.3	43.5	47.2
	読むこと	54.0	51.4	49.8
観点	知識・技能	80.0	73.6	71.3
	思考・判断・表現	59.6	57.1	57.2



★指導の工夫と改善

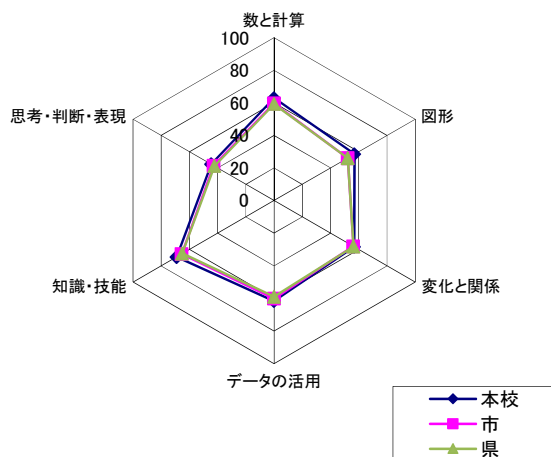
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使いに関する事項	<p>平均正答率は、市の平均を上回った。</p> <p>○文を読み様子を表す語として適する語を選ぶ問題において、97.6%と高い正答率を示し、定着していることが分かる。</p> <p>○漢字を読んだり書いたりする問題においては、6問中5問が市の平均を20%上回っており、既習の漢字が定着していることが分かる。</p>	<p>・修飾語と被修飾語の関係を捉えることを意識して読んだり書いたりできるようにしていく。</p> <p>・既習漢字においては、児童自身ができている部分とできていない部分を把握した上で、自分に合った勉強方法を取り入れ、しっかりと身に付くように工夫して指導していく。また、生活の中でも積極的に習った漢字を使いこなせるように指導していく。</p>
情報の扱いに関する事項	<p>平均正答率は、市の平均を上回った。</p> <p>○漢字辞典の使い方を問われる問題においては、9割近い児童が正答しており、市の平均を11%上回った。</p>	<p>・意味の分からない言葉や漢字があったときには、自ら国語辞典や漢字辞典を使って調べる習慣が身に付くよう、授業の中でも積極的に取り入れて活用する。</p>
我が国の言語文化に関する事項	<p>平均正答率は、市の平均を上回った。</p> <p>○文章に合うことわざ「急がば回れ」を選ぶ問題では、市の平均正答率を8%上回った。</p>	<p>・ことわざや慣用語を日常生活の会話の中で教師が積極的に用いることで、児童が親しみを持ってその意味と使い方が理解できるようにする。</p>
話すこと・聞くこと	<p>平均正答率は、市の平均を上回った。</p> <p>○話し手が伝えたいことの内容を捉えることについてはよくできている。</p> <p>○意見の共通点に着目して考えをまとめる問題については市の平均を5%上回った。</p>	<p>・教師や友達の話聞く際には、相手の意図することを考えながら、大切な部分を落とさずに聞けるように指導していく。また、朝の会などでスピーチをする機会を設定し、例を挙げながら話したり、聞き手に問いかけながら話したりするなどの工夫をした話し方ができるようにしていく。</p>
書くこと	<p>平均正答率は、市の平均を上回った。</p> <p>○内容の中心を明確にして事実を伝える文章を書くことにおいて、市の平均を10%上回った。</p> <p>●指定された長さで文章を書くことにおいては、市の平均を5%下回った。</p>	<p>・条件を指定して文章を書く機会を意図的に取り入れ、段落構成や文章のまとまりを項目立てたメモを作るなどして、スモールステップで書く練習を進める。</p>
読むこと	<p>平均正答率は、市の平均を上回った。</p> <p>○文章を読んで感じたことや考えたことを共有することができていることにおいては、市の平均を13%上回った。</p> <p>●叙述を基に登場人物の気持ちや文章の内容を捉えることについては、物語文、説明文とも市の平均を5%下回った。</p>	<p>・説明文を読む際には、段落ごとに書かれていることを正しく読み取ると共に、段落の役割や文章構成を考えて読むように指導していく。</p> <p>・物語文を読む際には、登場人物の言葉や動作、表情などの気持ちが表れている部分に線を引くなど、細かい描写にも目を向けて読み進めることができるように指導していく。</p>

宇都宮市立豊郷北小学校 第5学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	62.9	59.7	59.2
	図形	56.9	52.1	52.1
	変化と関係	56.7	56.1	56.3
	データの活用	61.6	60.1	58.9
観点	知識・技能	69.1	65.5	65.1
	思考・判断・表現	44.6	42.9	42.4



★指導の工夫と改善

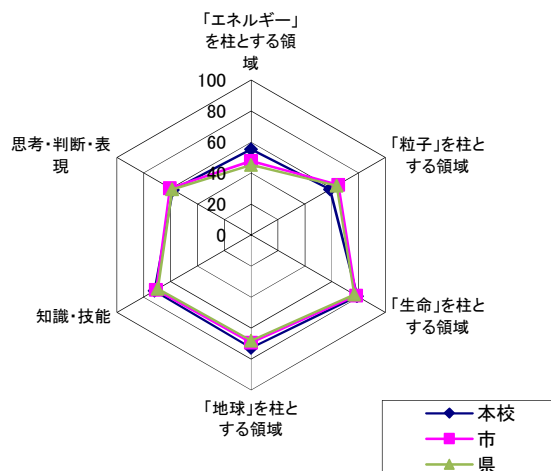
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>平均正答率は、市の平均を上回った。</p> <p>○「大きい数の読み方」においては、97%と高い正答率であった。</p> <p>○「小数第1位×整数」の問題において、市の平均を12%上回った。</p> <p>●「数直線を基に異分母分数の大小関係を考察する」問題において、市の平均を12%下回った。</p>	<p>・計算ドリルやプリント集などを活用し、基礎的事項の確実な定着を図る。また、間違えた問題はもう一度解く習慣を身に付けさせる。</p> <p>・授業の中で色々な単元の復習の時間を設け、整数、小数、分数の四則計算を確実に身に付けさせる。</p>
図形	<p>平均正答率は、市の平均を上回った。</p> <p>○「三角定規の角度」の問題においては、市の平均を14%上回っており、よく理解できている。</p> <p>●面積の単位の関係を説明する問題については、市の平均を9%下回った。</p>	<p>・面積の単位の関係についての理解を深めるために、ドリルやプリント集、教具を活用し、基礎的事項の確実な定着を図る。</p>
変化と関係	<p>平均正答率は、市の平均と同程度である。</p> <p>○2つの数量の関係を何倍かで答える問題において、市の平均を6%上回った。</p> <p>●伴って変わる2つの数量の関係を読みとる問題においては、市の平均を6%下回った。</p>	<p>・伴って変わる2つの数量について、その変化に着目して立式できるような類題に取り組ませる。</p>
データの活用	<p>平均正答率は、市の平均を少し上回った。</p> <p>○折れ線グラフを読み取ることは、市の平均を15%上回った。</p> <p>●2次元表の読み方の問題においては、市の平均を7%下回った。</p>	<p>・グラフを読み取る際に、根拠を基に分かることを説明する活動を取り入れたり、理科や社会の学習で、グラフを読み取る活動を取り入れたりする。</p>

宇都宮市立豊郷北小学校 第5学年【理科】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	55.3	47.8	45.3
	「粒子」を柱とする領域	58.8	64.9	63.6
	「生命」を柱とする領域	79.0	78.2	76.8
	「地球」を柱とする領域	72.8	69.5	68.1
観点	知識・技能	72.0	70.8	69.5
	思考・判断・表現	58.3	60.5	58.8



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	<p>平均正答率は、市の平均を上回った。</p> <p>○乾電池のつなぎ方とその名称を答える問題においては、市の平均を16%上回った。</p> <p>●簡易検流計の針のふれ方の問題においては、市の平均とほぼ同等であるが、その正答率は26%と低く、多くの児童が理解していない。</p>	<p>・簡易検流計をはじめ、実験器具の扱い方や見方について、その都度丁寧に指導していく。</p>
「粒子」を柱とする領域	<p>平均正答率は、市の平均を下回った。</p> <p>○水を冷やす実験の準備の問題では、市の平均を3%上回り、9割の児童がよく理解している。</p> <p>●ボールに空気を入れると弾むことを説明する問題においては、市の平均を16%下回った。</p> <p>●水の温まり方の問題では、市の平均を8%下回っており、正答率も24%と低い。</p>	<p>・実験等の実感を伴った活動を行う際に、結果の考察を自分の言葉で説明できるように指導していく。</p> <p>・学習したことを日常生活に結びつけ、身近に感じられるように指導していく。</p>
「生命」を柱とする領域	<p>平均正答率は、市の平均をやや上回った。</p> <p>○季節によって気温や動物の様子が変化することについては、市の平均を4%上回り、正答率も約9割とよく理解している。</p> <p>●関節の名称を答える問題では、市の平均を5%下回った。</p>	<p>・今後も身の回りで起こる事象を身近な問題として捉えさせるような問題提起を行い、主体的に学習に取り組ませることで理解を深めていく。</p> <p>・授業だけでなく、日頃から体の名称などについて意識できるように、支援していく。</p>
「地球」を柱とする領域	<p>平均正答率は、市の平均を上回った。</p> <p>○天気の決め方を答える問題では、市の平均を13%上回った。</p> <p>●水の流れと地面の傾きの問題では、市の平均を3%下回っており、正答率も36%と低い。</p>	<p>・身の回りで起こる事象を身近な問題ととらえ、文章で表現できる活動を日頃から設定していく。</p>

宇都宮市立豊郷北小学校 第5学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良質な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「クラスは発言しやすい雰囲気である」「友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができる」の肯定的回答の割合は100%である。今後も、一人ひとりが過ごしやすい学級の雰囲気作りを続けていく。

○「家で学校の宿題をしている」の肯定的回答の割合は100%であり、家庭学習の習慣が身についている。今後も、自主学習と併せて家庭学習を充実できるように指導していく。

○「将来の夢や目標をもっている」の肯定的回答の割合は97%であり、県の平均を大きく上回っており、夢や希望をもって毎日を生活できている児童が多いことが分かる。今後も、キャリア教育などに関連付け、将来の夢や目標をもつことの大切さを伝えていく。

○「学習して身につけたことは将来の仕事や生活の中で役に立つと思う」の肯定的回答の割合は97%であり、県の平均を大きく上回っており、学習と実生活との繋がりを実感している児童が多い。今後も学習と生活とのつながりを実感できるように指導を工夫していく。

○「自分はクラスの人の役に立っている」の肯定的回答の割合は83%であり、県の平均を21%上回っている。今後も、係活動や当番活動、児童会活動などの中で、自己有用感を高められるように支援していく。

●「友達の前で自分の考えや意見を発表すること」に対する「得意である」「やや得意である」という肯定的回答の割合は県の平均とほぼ同じであるが、「得意である」と答えた児童は14%であり、県の平均を下回っている。発表しやすい場の雰囲気を整えていくようにしていく。

●「自然や宇宙など、科学の内容を扱っているテレビを見たり本を読んだりすることが好きだ」の肯定的回答の割合は県の平均とほぼ同じであるが、「好き」と答えた児童は県の平均より低い。理科の授業でデジタル教材を活用したり、司書教諭と連携し自然関係の本をクラスに置くことで関心を高めていく。

宇都宮市立豊郷北小学校（第4・5学年共通） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
基本的学習習慣、学習における基礎基本の定着	学習のきまりの共通理解を図り、児童に指導すると共に、発問や指示、説明、板書等が明確になるよう心掛けて指導する。 朝の学習を活用して基礎基本の定着を図る。また、話し方・聞き方のポイントを掲示物で示し、児童が意識しながら話したり聞いたりできるようにする。	「学習に対して自分から進んで取り組んでいる」児童は4年生で66.6%、5年生で87.8%と、学習への取り組み方に学年差が見られる。 各教科の知識・技能においても、4年生と5年生では習熟度に学年差が見られる。
学習のねらいを達成させるための学び合い	授業において、その時間のめあてを確認すると共に、振り返りの時間を確保し、理解できたことやできるようになったこと、自分の課題等を児童が実感できるようにする。 互いの考えを交換し合う機会や場を確保し、自分の考えを広めたり深めたりできるようにする。	「授業であつかうノートには、学習の目標とまとめを書いている」児童は4年生で92.9%、5年生で95.2%、「授業の最後に、学習したこと振り返る活動をよく行っている」の設問で肯定的回答をした割合は4年生で66.6%、5年生で75.7%である。 「グループなどでの話し合いに自分から進んで参加している」の設問で肯定的回答をした割合は、4年生81.0%、5年生が75.6%である。
家庭学習への取り組み	学年の発達段階に応じた家庭学習の時間を設定し、児童が進んで学習に取り組めるよう指導を工夫する。 家庭学習強化週間を設けたり、懇談会等で家庭学習について話題にしたりと、保護者への啓発を図る。	「家で学校の宿題をしている」と肯定的回答をした児童は、4年生で90.5%、5年生で100%であった。しかし「自分で計画を立てて勉強している」の設問において、肯定的回答の割合は4年生が66.6%、5年生が78.1%である。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
・教科に関する調査では、特に国語において基礎基本の定着が図れていないことが分かった。また、学年、教科によって思考・判断・表現に課題が見られた。	国語の基礎基本の定着思考、判断、表現力を育てる指導の工夫	既習漢字を反復練習することにより定着を図る。文章を書く力を身につけるために、作文のテーマや形式を工夫するなどして、楽しく文章を書く練習を定期的に行う。さらに、課題における自分の考えを文章や図などに示して友達と意見交換をする機会を意図的に設け、思考力、判断力、表現力の育成を図る。
・学習の振り返り活動を行っているが、児童がじっくりと取り組む時間が取れていないことや考えが深められていない様子が見られた。	授業の終末における振り返り活動の徹底	授業の見通しを明確にして無理のない時間配分で学習できるようにし、振り返り活動の時間を確実に設ける授業展開を設定する。また、児童に本時を振り返るときの視点を与え、考えを深められるようにする。
・計画的に自ら学習することにおいて、課題が見られる。	家庭学習の推進	計画的に学習を進めることが苦手な児童に、家庭学習でどんなことができるのかを確認して、児童が自らやりたいと思う事例の提案をする。学習を選択することから、計画性を育みたい。